

五〇円

作詞 十三与太郎

- 一、 戦後もしばし 過ぎたころ
郵便局長が 訪れた
昔の貯金が 見つかった
五〇円だが 受け取れと
- 二、 戦のさなか 駆り出され
東京に出て 働いた
軍需工場で 少年工
その時 貯めた 金だった
- 三、 何はともあれ 生き延びる
どさくさのなかの 失念か
貧乏ぐらし 慣れつこで
死なぬ程度に 生きてきた
- 四、 一〇万ほどに なるのでは
戦前戦後を あざやかに
手妻よろしく お上様
五〇円ぼつちに ドロンのパツ
- 五、 価値観一切 無視された
夕バコにしたら 一個分
局長に罪の ないものの
お国の罪の 問われずに
- 六、 アペノミクスも きなくさい
麻民の蓄え ちよろまかせ
そろそろかなと キバをむく
五〇円ぼつちに ドロンのパツ